

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-132	A-135	23-079	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Investigating the relationship between prenatal alcohol exposure and children's behavioural and emotional development: analysis of the Growing Up in New Zealand study 出生前アルコール曝露と子供の行動および感情発達との関連の検討: Growing Up in New Zealand 研究			
執筆者			
Chu JTW, McCormack J, Jiang Y, Walsh D, Wilson H, Marsh S, Langridge F, Bullen C.			
掲載誌			
Alcohol and Alcoholism, 2024 Mar 16;59(3):agae029. doi: 10.1093/alcalc/agae029.			
キーワード			PMID
出生前アルコール曝露 (PAE)、神経認知的結果、行動、感情発達			38678371
要旨			
<p>背景: ニュージーランド (NZ) では、2018 年の妊娠中のアルコール摂取に関するガイドラインにおいて、妊娠中の飲酒に安全なレベルは存在しないとしているが、胎児期のアルコール曝露 (PAE) は、特定の領域における欠陥から生涯にわたる広範囲な障害に至るまで様々な悪影響を引き起こす可能性が指摘されており、胎児性アルコールスペクトラム障害 (FASD) と総称される。そこで本研究では、PAE と行動および情緒発達の間接的な関係を、「Growing Up in New Zealand (GUiNZ)」コホート研究の 8 歳データセットを使用し検討した。</p> <p>方法: GUiNZ コホートは、NZ で 2008 年から 2010 年の間にリクルートされた母親とその子供の縦断的研究である。母親の PAE (「非飲酒者」、「禁酒者」、「飲酒者」) と 8 歳時の子供の行動および感情発達との関係を線形回帰、ロジスティック回帰分析で評価した。Strength and Difficulties Questionnaire (SDQ) スコアは、行動および情緒発達に関する 25 項目、5 つの下位尺度で構成される自記式質問紙であり、これを主要評価項目とした。この他、言語能力、実行機能、学業成績、適応行動などを副次評価項目とした。</p> <p>結果: PAE の情報が得られた 6,732 名の母親とその子供を対象とした。子供の 8 歳時点での SDQ スコアは、地域の貧困や母親の健康指標などの潜在的な交絡因子を制御しても、PAE の量および時期で差は見られなかった。副次評価項目では、言語・リテラシー (PROLL) スコアにおいて、妊娠中に飲酒を控えた母親の子供と比較して、アルコールを摂取した母親の子供でスコアは高かったが [調整後の平均差 (aMD) = 0.67, 95% CI = 0.016, 0.11]、他の項目では有意な差はみられなかった。また、マオリの子供におけるサブグループ解析では、母親の PAE が SDQ の下位尺度である子供の感情的問題 [OR = 4.336, 95% CI = 1.118, 21.995]、対人関係問題で関連していた [OR = 2.319, 95% CI = 1.061, 5.293]。</p> <p>結論: ニュージーランドの代表的な子どものコホートにおいて、PAE と 8 歳時の行動・発達レベルとの関連は見られなかった。PAE と行動および感情発達との関連の測定は難しく、調整変数は複雑であることから、正確な測定のためには、より大規模な母親と子どものコホートの設定、より正確な PAE と行動および感情発達のアウトカム評価が期待される。</p>			